

輝け！日奈久っ子



八代市立日奈久小学校
学校便り 第7号
令和7年10月22日発行
文責 米原

笑顔いっぱい やる気いっぱい 元気いっぱい

小中一貫・連携教育!!

八代市では全中学校区で小中一貫・連携教育を推進しており、本校でもその一貫として、中学校の先生による乗り入れ授業（6年英語：久保先生・3～6年図工：吉岡先生・5・6年音楽：木本先生）を行い、学びと交流を深めています。こうした授業を通して、子どもたちは中学校への期待や安心感を育んでいます。また、運動会やクリーン作戦（11月予定）などの合同活動も行い、9年間の義務教育を見通した子どもの成長を支援しています。

10月には授業参観を実施しました。6日（月）には中学校の先生方が小学校の授業を参観され、1～6年生やサニー、ハートルームの様子を見ていただきました。水俣市からも複式学級の授業参観にられました。子どもたちは多くの先生方に見守られながら意欲的に学習に取り組みました。中学校の先生方からは温かい言葉をたくさんいただきました。



8日（水）には中学校の理科の研究授業に小学校教員も参加。中学生が実験を通して考察を自分の言葉でまとめる姿に感心し、授業後の研究会では相互理解を深める機会となりました。

このように、本校では小中連携を大切にしながら、児童の健やかな成長を支えています。

八代市『くまなびの日』スタート

令和7年10月1日より、八代市立の小・中・特別支援学校を対象に「くまなびの日」が始まりました。家庭での体験的な学びを通じて、子どもの個性や可能性を伸ばすことを目的とし、校外活動を欠席扱いとしない制度です。年3日まで取得可能で、事前届出が必要です。家庭教育の重要性が高まる今、柔軟な学びを支える新たな制度です。

行事で成長

10、11月は見学旅行や修学旅行、地域の方をゲストティーチャーとした体験活動など、たくさんの行事があります。子どもたちは家庭ではできない、学校だからできる行事を通してあいさつの大切や相手への思いやり、そして、日奈久の良さを実感してもらいたいと思います。日々成長日奈久っ子!!



子どもの力を伸ばすための『夢実現コーチング』②

講話では、「夢を実現し、成功する人はどんな人？」という問いかけから、大谷翔平選手のエピソードが紹介されました。彼は「他人がポイって捨てた運を拾っているんです」と語り、ゴミ拾いという日常の行動にも運を引き寄せる意識を持っていることが分かります。栗山監督は大谷選手について「素直で学ぶ力がある。夢に向かってチャレンジし、日々進化している」と語っているそうです。

また、子どもへの関わり方について「ヘルプとサポートの違い」という話もありました。「ヘルプ」は大人が主体となって困っている子を助けること、「サポート」は子どもが自分でできるように支えること。たとえば、靴紐が結べない子に対して、結んであげるのがヘルプ。結び方を教え、自分でできるようにするのがサポートです。サポートには時間と根気が必要です。

日々の関わりの中で、子どもが『自分ならできる』と信じられるような言葉をかけ、そっと見守ること—それこそが、未来を育てる大人の大切な役割なのだと、心に深く残る講話でした。

